

敦賀発電所 1号機 チャンネル着脱機の不具合について

敦賀発電所 1号機において、新燃料の除染作業^{※1}を行うため、平成29年11月20日に使用済燃料プールに取り付けられているチャンネル着脱機^{※2}（以下、「着脱機」という。）の可動台に新燃料を載せてチャンネルボックス^{※3}を取り外していたところ、可動台の駆動用チェーンが切れ、新燃料を載せた状態の可動台が約4mの高さから下端部まで下降しました。

水中カメラによる外観点検で新燃料に変形や損傷がないこと、また、使用済燃料プールの水質及びモニタの指示値にも異常がないことから、新燃料が健全であることを確認しました。

その後、着脱機の可動台を使用済燃料プールから引き上げ、点検作業を行っていたところ、2月7日に切れたチェーンの一部が欠損（長さ：約20mm、太さ：約7mm）していることを確認しました。

欠損部について、水中カメラ等を用いて使用済燃料プール内の着脱機周辺を中心に確認するとともに、チェーンが切れた原因調査を行っています。

なお、欠損部は、その大きさや使用済燃料プール内の環境などから、保管している燃料や冷却設備等に影響を与えることはないと考えています。

本事象による周辺環境への影響はありません。

- ※1：原子炉に装荷するため使用済燃料プール内で保管していた新燃料（36体）については、廃止措置に伴い使用しないことになったため、除染し、燃料メーカーに返送することとしている。
- ※2：巻き上げ装置で可動台を昇降させ、チャンネルボックスの着脱や燃料外観点検等を行う。
- ※3：燃料集合体を覆っているジルコニウム製の四角柱の筒。燃料から冷却水に効率よく熱を取り出すための水流を確保するとともに、制御棒の動作をガイドする役割を持つ。

